

令和 5 年度（2023 年）自己評価表

日本工学院専門学校

1. 学校の教育目標

本校は、社会の要求に即応した工業専門課程、芸術専門課程を設け、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する」というミッションのもと、「建学の精神」「教育方針」「教育目的」の三つを掲げ、より高度な専門教育を実現するため、従来からの学科を再編成し、カレッジ制を導入している。カレッジでは、各分野の教育内容を常に見直し、改善して、多彩なスペシャリストの育成を目的としている。

「建学の精神」

高度化する現代社会の変化につねに即応し、創意工夫を重ね、独立自尊の道を学び、開拓者精神を涵養することにより、各分野での活動を通じ、広く社会に貢献する人格の形成を重点とする。

「教育方針」

毎日の授業（講義、実習、実験）を重視する専門教科の修得を通じ、人格を陶冶する。工学・芸術・医療それぞれの分野における開拓者精神を培う。

「教育目的」

つねに新鮮な人材の要望される現代社会に対応し、専門の学理と技術を身につけ、職業人として自負と実力を蓄え、もって社会の中堅たり得る人材を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ① 学生の夢を実現するための教育
- ② 人間力を養成できる段階型カリキュラムの更なる研究
- ③ 技術革新が著しい分野の人材育成に向けた学生支援
- ④ 地域との連携を活かした教育土壌の育成
- ⑤ 学生第一主義（スチューデント・ファースト）

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知 されているか	④ 3 2 1
・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方 向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

1. 常に時代のニーズに合った新学科の検討
2. 社会のニーズに対応した実践的な職業教育に積極的に取り組む

② 今後の改善方策

1. 技術革新が著しい分野の人材育成に取り組み、時代のニーズに即応できるよう、各カレッジにおいて、育成人材像等を常に検討
2. 育成人材像、教育指標を見直し、社会のニーズに対応した実践的な職業教育に積極的に取り組む

③ 特記事項

「理想的教育は理想的環境にあり」の学園理念に基づき、ロマンある新キャンパスを建設し、将来の発展の動向も踏まえ学生が常に活気溢れ楽しく勉強等ができる教育環境を整備する。平成 23 年度より新たな取り組みとして、学生たちの就職力を高めるための「日本工学院就勝宣言～VICTORY PROJECT」をスタートし、各分野の専門能力に加え、社会が求める人間力を養成できるカリキュラムを構築し、各分野で活躍できる「専門力」と「人間力」を併せもつ真のプロフェッショナルを育成している。

「若きつくりびと」

「理想的教育は理想的環境にあり」の理念に基づき、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する」ことをミッションとする日本工学院ならではの本格的な学習環境で、自由にモノ、コト、場、喜びなどを作る（創る）本校学生のことである。日本工学院ではすべての学科で「つくる」ことを教育の柱に据え、新しいモノやコトなどをつくり出せる人材「若きつくりびと」育成のため、75 年の歴史が培ってきた人材育成のノウハウを生かし、理想の教育環境を実現するためのさまざまな取り組みを行っている。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

① 課題

1. 人事委員会において、年齢構成等の審議を経たうえでの人事選考の取り組みを継続的に実施する。
2. 業界や地域社会に対するコンプライアンスについての取り組みを強化する。
3. 自己点検自己評価等について情報公開を継続する。

② 今後の改善方策

1. 効率的な人材活用、情報共有及び提供する教育内容の均衡が図られるように取り組みを進めたい。
2. 業界や地域社会に対するコンプライアンスについては、法令・社会規範・倫理を遵守することがこれまで以上に重視されるので、学生の行動指針の策定とその遵守のための内部統制システムの構築に取り組み、学生へきちんと説明し協力を得る。
3. 自己点検・自己評価を取り組みは、平成 25 年度より本校のホームページ等で情報公開を行ったが、令和 5 年度も引き続き情報公開を行う。

情報公開： <https://www.neec.ac.jp/public/>

③ 特記事項

- ・学校運営を行う上で不可欠である教育目的、教育目標を実現するための単年度計画および中期計画を策定して、年度始めの合同部長会において副校長が学校の「重点方針と課題（目標を含む）」を発表して、法人全体に周知している。
- ・令和３年４月に「高等教育の修学支援新制度」の認定校となった。

(3) 教育活動

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発な どが実施されているか	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等と連携により、カリキュラムの作成・見直し 等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習 等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保する などマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成 など資質行動のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

- ① 本校独自の「教育設計図」を学科ごとに落とし込み、入学から卒業までに学生が習得すべき知識・技術と社会人基礎力を策定し、段階を設けて明確に提示しているが、更なる仕組みの策定を行う。
- ② 学科にとらわれることなく多くの学生が資格取得しやすい体制を整える。

② 今後の改善方策

1. 学科ごとに実施している本校独自の「教育設計図」を学生一人ひとりの到達目標に向けて、ステップごとに習熟度や理解度をチェックしながら、理解度や習熟度に合わせて無理なくスキルを伸ばすステップアップを行う仕組みを行う。
2. 資格支援の体制は出来ており、学生個々の状況に合わせ、きめ細かな対応が出来るよう、更に改善するよう努力する。

③ 特記事項

・教育設計図の導入と検証

・授業評価アンケートの実施と質問項目の検討

※授業評価アンケートについては教職員に対してフィードバック面談を採り入れ、さらなる授業改善を心掛ける。また、教員へのフィードバックを迅速にするため Web によるアンケート調査に切り替える検討を行う。

・学生生活調査の実施

・就職力を向上させるための講座「チャレンジプログラム」の一環として「コミュニケーション基礎講座」と「社会人基礎力育成講座」「キャリアデザイン」を定期的実施し、様々な視点からキャリア教育を、学生のニーズに合わせた形で実施している。

・大学編入を目的とした「オープン講座」では、数学や英語などの基礎教養科目を中心に、単位互換科目として開講している。

・留学生に対しては日本語学習サポート講座（無償）を 7 月～翌年 1 月まで開設している。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上がはかられているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1

① 課題

1. 校友会（日本工学院卒業生組織）としての卒業生の管理は、組織としては規定等もあり確立されているが、多くの卒業生がいるためサービス充実に課題がある。
2. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているとは言えない。

② 今後の改善方策

1. 校友会を中心とした活動を積極的に戦略的に支援することで全体的な把握に努めることであり、校友会との連携を密にすることと考える。
2. 卒業生の入社後の状況を把握するため、キャリアサポートセンターと学科が連携して会社訪問に取り組むことによってキャリア形成に必要な情報を入手し、就職率の向上させるために専属職員と連携した継続対応により改善に努めたい。

③ 特記事項

- ・資格取得等の体制として放課後の「チャレンジプログラム」の支援
- ・2023年度の学校全体の進路決定率：97.5%（令和6年5月1日現在）
- ・2023年度の退学率：5.6%
- ・カレッジ別退学率：クリエイターズ 6.2%
 - デザイン 6.2%
 - ミュージック 4.3%
 - IT 6.9%
 - テクノロジー 4.5%

(5) 学生支援

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

1. 保護者との連携については、現在は年2回の学内保護者懇談会（進級期・卒業期）を実施して、学生の成績や学校での様子を20分程度目安に面談をしている。また、年2回担任のコメントが記載されている成績表を送付している。
2. 課外活動に対する支援体制は部活動とボランティア活動であるが、どちらも指導する教員の数が限られており万全とは言えない状況である。

② 今後の改善方策

1. 保護者の意見等を学校の運営の中に取り組む計画である。また、インターネットのシステムを利用することによって、保護者と今まで以上に細やかな連携を取るよう努める。
2. 部活動やボランティア活動を推進するための仕組み作りを積極的に実施したい。

③ 特記事項

- ・地域との連携

- ・校友会の支部組織の活性化

- ・2020年から地方就職者支援として地方就職（UIJターン）支援金制度を設け地方就職試験時の交通費補助を行っている。（東京都市圏：東京、神奈川、千葉、埼玉を除く）

④ 2023 年「若きつくりびと育成奨学金 優秀学生校長賞」の設置と奨学金の給付

2027 年に創立 80 周年を迎える片柳学園では記念事業として「若きつくりびと」を育成するための奨学金を設立した。この奨学金は在校生を対象に素晴らしい学習成果を収めた学生に、優秀学生校長賞として 10 万円の奨学金を給付した。日本工学院では今後も「若きつくりびと」育成

(6) 教育環境

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実施施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

① 課題

インターンシップを含む企業研修先や海外研修先への受け入れ先でのマナーと事前教育の徹底指導。

② 今後の改善方策

実施にあたっての指導体制は、教員が直接指導の他に、マナー・挨拶のしかた・電話の取り方等の意識が芽生える講演などを考える。

③ 特記事項

片柳学園創立 70 周年記念事業として、蒲田キャンパス再整備の建設工事が 2016 年 6 月完成。クラブハウス棟と実習棟が新設されたほか、セントラルプラザの再整備、その地下には多目的ホールが設けられた。これにより教育環境のさらなる充実を図るとともに、社会に貢献できる人材の育成に取り組んで行く。クラブハウス棟は、地上 4 階建で 1 階には学生食堂、2～4 階には各クラブ・サークルの部室を設置。実習棟は、1 階は学生食堂、2～4 階には各教室、実習施設を完備。多目的ホールは、4,000 人収容の舞台付き多目的ホール。電動収納観客席をはじめとした舞台装置や、最新の音響・放送設備を完備しており、各種コンサートや公演に使用する。セントラルプラザは、キャンパスの中心にあり、季節ごとにキャンパスを彩る花や緑、オブジェが設置された。

- ④ 遠隔授業に対する学内のインフラ整備は google 社 G スイートが運用 4 年目を迎え、学内でも浸透が進み今後さらなる活用が期待される。10 月より有償版の Slack も新規導入した。
- ⑤ 学内 WiFi 環境の整備については、半導体供給不足、ウクライナ戦争の影響により整備が遅れていたが、2023 年度 4 月よりキャンパス敷地内の Wi-Fi 化が完了した。
- ⑥ 令和 4 年 5 月より新たに日本工学院専門学校（蒲田校）の専用サイトである、Link 日本工学院（<https://link-kmt.neec.ac.jp/login>）を開設し、学生、保護者にタイムリーに学園情報（掲示板、カレンダー）を伝達する専用サイトを開設した。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか。	④ 3 2 1
・学生募集活動は、適正に行われているか。	④ 3 2 1
・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。	④ 3 2 1
・学生納付金は妥当なものとなっているか。	④ 3 2 1

① 課題

1. 学生の募集と受け入れについては、適正な活動を行っている。
2. 学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基礎として、学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している。

② 今後の改善方策

1. 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会が定めた募集開始時期や募集内容などを遵守し、時代のニーズに即応した高度な職業人の育成を念頭に、保護者向けの冊子を作成し幅広く募集活動を展開している。
2. 学納金は、年 2 回、前期と後期に分けて納入することになっている。学納金の請求については、前期分は 3 月初旬、後期分は 9 月初旬に学費支払者宛に郵送し、それぞれ月末まで振込みをするように依頼している。

③ 特記事項

- ・入学辞退者に対する授業料等の返還の取り扱いについては、文部科学省通知「18 文科高第 536 号」に準じ適切に行っている。
- ・片柳修学支援奨学金→若きつくりびと奨学金へ名称変更（内容等は変更なし）
- ・本校は厚生労働省の実施する「教育訓練給付制度」（専門実践教育訓練給付金および教育訓練支援給付金）について、4 学科 4 講座において指定を受けている。これは、一定期間以上 雇用保険の被保険者であった者が、厚生労働大臣の指定する講座を受講し修了した場合、収めた 授業料等の一部が支給される制度であり、社会人の再チャレンジの選択肢として支援の体制を整えている。
- ・オンラインを活用した入学試験を導入して受験生の負担軽減に努めている。
具体的にはオンラインエントリー（総合型選抜入試）、オンライン面接（総合型選抜、学校推薦型、一般選抜）を導入。遠方居住者の交通費や体調不良者のオンライン面接切り替えなど受験生への負担を軽減している。現在はオンライン出願を導入するべく学内で検討中である。

(8) 財務

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・本学園は、ここ数年安定した学生数を確保しており、収支状況においても主要な財務比率が全国平均を上回りバランスが取れている。

これにより、2024 年度以降についても財務基盤が安定する見込みである。

② 今後の改善方策

- ・本学園の理念は、「理想的教育は理想的環境にあり」である。この理念を基に、教育環境と教育施設設備の整備、並びにこれを活用して教育を施す質の良い教員の確保を実践している。本学園は、将来ともこの理念を第一の基本に据えて、これを実現させるために安定した財務基盤の確立を目指していく。

③ 特記事項

- ・本学園では、平成 17 年の私立学校法の改正に伴い、財務情報の公開体制を整備し、公開を実行するための規程を定め、適法な公開を実施している。公開に際しても、学校関係者以外の方にもわかりやすい内容とするため、事業報告書の記載内容の充実を図っている。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 課題

情報システムの個人情報を扱う「業務系システム」は、学生が実習などに利用する「教育システム」とは完全に分離することで高いセキュリティを確保している。

② 今後の改善方策

認証と監査ログの仕組みを持つ高セキュリティの業務ネットワークを構成し、そのネットワーク内に Campusmate-J と呼ばれる業務システムを構築している。また、卒業生の転職及び住所等の変更登録に対応するため名簿・会員管理システムの改善、新規導入済みである。

③ 特記事項

- ・「学校法人片柳学園における個人情報の保護に関する規程」（平成 17 年 3 月 1 日施行）
- ・「学校法人片柳学園 ハラスメントの防止等に関する規定」（平成 20 年 2 月 1 日施行）
- ・現在ホームページ、ブログ、Facebook、LINE については「インターネットメディアガイドライン」によりカバーしている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

① 課題

本校の教育環境を活かし、施設・設備の貸し出しや、各分野での教育成果において、地域や社会に還元している。

② 今後の改善方策

産官学連携における事業、在学生によるボランティアはもとより、本校が力を入れている「ものづくり」の楽しさを知ってもらう機会を提供するなど、密接に地域と交流し、それは日常的なものとなっている。本校の教育資源を十分活用した社会貢献・地域貢献を行っていると自負している。

③ 特記事項

- ・ギャラリーや教室などの貸出
- ・過去5年間に大田区と連携して行った地域連携イベントを下記に記載
(新型コロナウイルス感染拡大防止対策による開催中止も含む)

空の日フェスティバル
春宵の響
モノづくりたまご学生デザインコンペ
蒲田西口国際フェスティバル
絆音楽祭
音楽の祭日
国際都市おおた大使
O T A ふれあいフェスタ
大田区多文化共生連絡協議会
大田区観光PRミュージックビデオ撮影
大田区役所庁舎内「モバイル紹介アプリ制作」
夏休み親子体験教室
高齢者ふれあいフェスタ
おおたオープンファクトリー
ものづくり体験&しごと発見教室

下町ボブスレープロジェクト協賛の展示と特別講演
新入留学生情報交歓会（大田区連携）
大田区成人のつどい
未来を創るこどもプロジェクト
JR 蒲田駅生誕 120 周年記念プロジェクト

以上